

青森農研フラッシュ

研究成果

(地独) 青森県産業技術センター・農林部門

低アミロース米「あさゆき」を安定生産するための栽培法

－倒伏させずに高品質・良食味米生産を目指す－

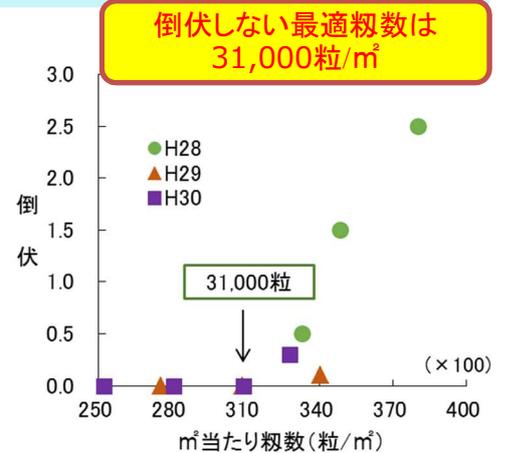
農林総合研究所

中生低アミロース米「あさゆき」（系統名:「ふ系228号」）は、耐倒伏性が“中”と弱いため、倒伏させず、良食味・高品質・安定生産のための栽培法について検討したので、紹介します。

「あさゆき」栽培のポイント



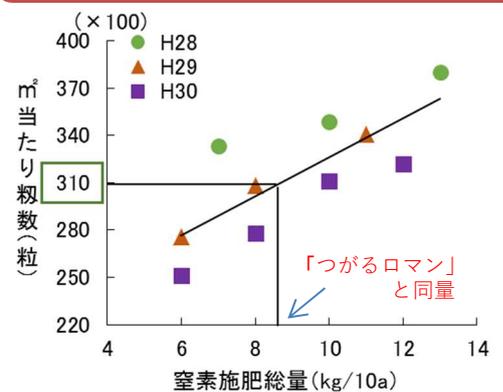
- ◆ 施肥量：「まっしぐら」より1~2kg程度減らし、「つがるロマン」並とします。
倒伏しない最適籾数31,000粒/㎡を得るための窒素施肥総量です。
- ◆ 追肥：穂肥1回体系とし、窒素施肥量は2kg/10aを上限として幼穂形成期に行います。
幼穂形成期の追肥2kg/10aでは、生育量にバラツキがあっても玄米タンパク質含有率が安定し、良食味米となります。
- ◆ 刈取適期：出穂期後の積算気温 960~1,150℃ごろです。
籾の黄化程度90%以上を確認して行います。



「あさゆき」の収量構成要素の指標

品種名	収量 (kg/10a)	穂数 (本/㎡)	1穂 籾数 (粒)	㎡籾数 (粒/㎡)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)
あさゆき	570	430	70~75	31,000	80	23
まっしぐら	540~630	440~460	75~80	33,000~37,000	80	22~22.5
つがるロマン	560~600	420~430	75~80	31,000~35,000	80	22.5~23.5

窒素施肥量は地帯別施肥基準量並かやや少なめ(つがるロマンと同量)



注) 窒素施肥総量：
基肥+追肥の窒素施肥量を合計した総量

技術の活用・注意点

- ◆ 農林総合研究所藤坂圃場(十和田市)において、栽植密度80株/坪で得られたデータ(平成28~30年)を根拠としています。
- ◆ 穂発芽性が“難”であり、休眠が深くなる年次があります。そのため、催芽時には鳩胸を確認してから播種作業を行ってください。
- ◆ 胴割米発生予防のため、機械乾燥する場合に急激な乾燥は行わないようにして下さい。

* 本成果は、農林水産省及び農研機構生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」の活用によるものです。

お問い合わせ

農林総合研究所 作物部 (TEL 0172-52-4396)

おもりの未来、
技術でサポート

